

平成28年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成28年4月～平成29年3月

1. 学校概要

学校名 金沢市立 兼六小学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
中学校 中高一貫教育 高等学校
教員養成 技術/職業教育
特別支援学校 その他（ ）

所在地 〒920-0931
石川県金沢市兼六元町 7-15

E-mail kenroku-e@kanazawa-city.ed.jp

Website cms.kanazawa-city.ed.jp/kenroku-e/

児童生徒数 男子 225 名 女子 223 名 合計 448 名
 児童・生徒の年齢 6 歳～ 12 歳

2. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか（ ）

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容

3年 「金沢の和菓子文化を学ぼう」～金沢のお茶と和菓子～

金沢は和菓子消費量が日本一であることを知り、「なぜ日本一なのかひみつを見つけよう」という学習課題を持ち、金沢の和菓子について調べた。金沢に伝わる風習や季節の行事と和菓子について調べる中で、和菓子は茶道とともに発展してきたことを知った。そこで、校区にある7軒の和菓子屋を訪問し、直接職人さんやお店の方にインタビューしたり体験をしたりすることで、和菓子について主体的に学んでいった。そして、季節感やお客さんを大切にし、どの店もいろいろと工夫をしていることに気づくこともできた。



また、自分で抹茶碗を作り、自分で作った和菓子とともにその茶碗で抹茶を頂いた。和室での作法やお茶の頂き方などを知り、金沢ではお茶文化とともに和菓子文化が愛され、伝承されてきたことなどを学んだ。

その後、和菓子消費量が日本一であるにもかかわらず、和菓子消費量はこの10年間で減っていることを知り、大変驚いていた。そこで、売るための工夫を考えたり、和菓子屋さんのポスターを描いたり、参観日に保護者で伝えるなどして自分たちにもできることを考え取り組んだ。子どもたちは和菓子を身近なものとして捉え、金沢の和菓子文化を大切にしていきたいという思いを持つことができた。



4年 「伝統工芸を学ぶ」

金沢の伝統工芸「加賀友禅」について、校区の友禅作家である新納さんから「下書き→下絵→糊置き→彩色→中埋め→水元」の工程を指導していただき、体験を通して、それぞれの工程で使う道具の名前、使い方、気をつけることなどを学び、作品を仕上げた。その後、伝統を守るための工夫を5人の作家さんにインタビューし、グループごとに整理・分類してまとめ、自分たちができることについて考えていった。



さらに、学んだことを「工程」「歴史」「これからの加賀友禅」といったテーマごとのグループでまとめ、保護者に向けて発信した。これらの学習を通して、加賀友禅のすばらしさを誇りに思い、大切にしていきたい気持ちを持つようになった。



5年 「自慢できる浅野川にしよう」

5年生は、まず自分たちの校区にある身近な浅野川の自然環境について調べる計画を立てた。実際に浅野川の様子を観察した子どもたちの間では、浅野川はきれいかきれいでないか意見が分かれた。自分たちが見た事実とその理由を話し合う中で、川の水の生き物調べと水質検査、ゴミ調べを行うことになった。

浅野川に生息する生き物調査では、川底や石に付着している生き物を採集して指標と比べたり、パックテストをして結果を分析したりした。科学的な調査の結果、浅野川の水はきれいという結果になったが、子どもたちには身近な浅野川を自慢できる川にしたい思いがあり、「ゴミが落ちていたから完全にきれいではない」「下流の様子も調べたい」「他の川と比べてみたい」と新たな課題が生まれた。今ま



であり気にしていなかった浅野川について、様々な思いを持つことができた。

終末には、自分たちはこれから浅野川をどんな川にしたいか、そのためにどんなことができるかを考え実行した。一人一人が浅野川と向き合い、地域の一員としてよりよい環境をつくっていこうという意識を持つことができた。

6年 「金沢の“世界に誇れる魅力”を発信しよう ～KJMプロジェクト～」

世界的な観光誌「ロンリープラネット2014」の記事で、行ってみたい旅行先の世界第4位となった金沢や北陸地方。「何を目的に?」「金沢ってそんなに魅力的?」という意識から学習がスタートした。

5年生までに見つけた魅力の一つである加賀宝生を県立能楽堂で発表し、伝統芸能を継承していくことの大切さに気づくようになった。また、姉妹校の名古屋市立荒子小学校の児童に、調べた金沢の魅力を伝えたいと、百万石まつりや前田利家、地域にある観光名所等を調べパンフレットにまとめた。交流会当日は、兼六園や金沢城、ひがし茶屋街、金沢21世紀美術館等を実際にガイドしながら魅力を伝えた。さらに、金沢を訪れている国内外からの観光客が感じていることを直接インタビューし、生の声を調査した。自分たちが当たり前だと思っていた食のおいしさや風景の美しさが大きな魅力だということや、人の優しさや新幹線効果の大きさも新発見することができ、自分の校区や金沢を誇りに思う気持ちを強くすることができた。



(2) 成果と課題

①人と人とのつながりから、社会・自然・世界とのかかわりを深める

今年度、統合により校区が広がったが、これまで同様、学年に応じた地域の町並みや文化、伝統 産業とかかわる体験活動を実施し、学年があがるにつれ地域に愛着や誇りを持つことができるようになっていく。また、古くから受け継がれてきたものを支え守り続けてきた人たちの思いや願い、環境 を維持し守っていこうとする人たちの取組にもふれる学習をこれまで以上に大切にしたい。

② カリキュラム作成上の工夫

体験活動については、校区のよさを十分生かし充実したものになっている。しかしながら、地域の 環境や人の思いに触れ、もっと主体的に「このままでいいのか」「維持するにはどうしたらいいか」「これからどうしていけばいいか」など、より強く意識し行動に結びつけることのできる実践力を身に付けるための単元計画、指導の工夫について、今後さらに充実させていく必要がある。

③ 発表の場の工夫

今年度は、発信・交流の場を授業参観に限らず、必要な時期に適した相手に対して行うことができた学年があった。対話力を向上させ、意見を聞いたり新たな情報を得たりする機会にしていきたい。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）